

研究に参加された方への研究結果のフィードバック

専修大学人間科学部心理学科教授の国里愛彦です。この度は、山崎智さんの「新たな心理的柔軟性尺度の開発とセルフ・コンパッションとの関連 -COSMIN と心理ネットワークモデルを用いた検討-」での調査にご参加いただき、ありがとうございました（調査1の倫理申請番号は20-ML207008-1, 20-ML207008-2, 調査2の倫理申請番号は21-ML207008-1, 21-ML207008-2です）。以下が山崎さんの研究概要と結果になります。こちらをもって研究結果のフィードバックとさせていただきます。以下の内容について、疑問点やより詳細な説明がお聞きになりたい場合は、国里愛彦までお問い合わせください。

研究の概要と結果

研究1

Personalized Psychological Flexibility Index (PPFI) (Kashdan et al., 2020)は、アクセプタンス&コミットメント・セラピー (ACT)の基礎研究及び臨床実践での心理的柔軟性の測定を改善することが期待でき、PPFIの日本語版を作成することは国内の研究及び臨床において有用と考えられる。そこで、PPFI日本語版 (PPFI-J)の開発を目的として、COSMINに準じてPPFI日本語版の作成、信頼性、妥当性及び再検査信頼性評価を行った。調査は、クラウドソーシングサービスに登録する日本語を母語とする一般成人を調査対象とし、オンライン上で行った(有効回答: 554名, 平均年齢: 39.0歳(標準偏差:10.0))。再検査信頼性は、初回有効回答者の中から無作為に選出して1ヶ月の間隔を空けて調査を行った(有効回答: 140名, 平均年齢: 40.6歳(標準偏差:10.0))。構造的妥当性について、原版の3因子モデルが適合しなかったことから探索的な検討を行い、構成概念妥当性の評価と総合して、原版の3因子をグループ因子として保持し一般因子を仮定したbi-factorモデルを適用した。適合度指標及び因子負荷量において十分な値が得られ、PPFI-Jの合計得点との関連が想定される心理尺度との相関係数は、設定の18尺度中13について基準に適合した(適合率: 72.2%)。クロンバックの α 係数の値(0.77)は基準に適合しなかったが、概ね一貫性があると評価できる結果であり、再検査信頼性は基準に適合した(ICC値: 0.72)。検証の結果、PPFI-Jは一定の妥当性及び信頼性が確保されていると判断した。

研究2

心理的柔軟性と同じくマインドフルネスに密接に関連するとされるセルフ・コンパッションは、ACTと様々な形で軌を同じくしており、両者の融合により介入効果の向上が期待されている(Kashdan and Ciarrochi, 2013)。両者の共通基盤と独自性について明らかにすることを目的として、心理的柔軟性とセルフ・コンパッションの関連を、Gaussian Graphical Model (Epskamp et al., 2018)による心理ネットワーク分析を用いて探索的に検討した。具体的には、研究1で開発した心理的柔軟性を測定する尺度のPPFI-Jとセルフ・コンパッション尺度日本語版(SCS-J)(有光, 2014)の項目及び下位尺度レベルのネットワーク構造について検討した。調査は、研究1と同様に、一般成人を調査対象としてオンライン上で実施した(有効回答: 534名, 平均年齢: 41.0歳(標準偏差:10.0))。PPFI-J・SCS-J間の心理ネットワークには、下位尺度(PPFI-J:「回避」(ネガティブな概念), 「受容」「管理」(ポジティブな概念), SCS-J:「自分へのやさしさ」「共通の人間性」「マインドフルネス」(ポジティブな概念), 「自己批判」「孤独感」「過剰同

一化」(ネガティブな概念)) ごとに、属する項目間の正の関係性による纏まりが見られた。尺度内及び尺度間で、ポジティブな概念の下位尺度間、及びネガティブな概念の下位尺度間での正の関係性、ポジティブな概念とネガティブな概念の下位尺度間での負の関係性が確認され、両尺度のネットワーク構造上の関係性が明らかとなった。また、中心性指標からは、ネットワーク内で影響の大きい項目が示された。心理ネットワーク構造からは、両尺度の間に共通基盤を示すような下位尺度間の相互の強い関係性は見られず、両尺度は独自性を持つものと考えられた。また、項目レベル及び下位尺度レベルの関係性の検討より、両尺度(概念)間で影響が伝播する経路を想定できることが考えられた。臨床において、それぞれの独自性を考慮して、両者の心理ネットワークの関係性を適用することで、介入技法のさらなる精緻化に貢献できる可能性があると考えられる。